ボーリング柱状図

調査名 志井地区地すべり調査

事業・工事名

ボーリングNo.	5	1	3	2	5	1	4	7	0	0	0

シートNo.

ボーリング名	B-5-3	調査位置	B-5-3本孔			北緯	34° 27′ 04.6000″
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	平成27年 7月 2日～平成27年 7月 7日			東経	132° 13′ 18.4200″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	TP 446.52m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.00m	使用機種	試錐機	東邦製D-1	ハンマー落下用具	自動落下
			エンジン	ヤンマーNFD-10	ポンプ	東邦製BG-3C

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位／測定月日
1	445.07	1.45		表土	茶						表土。 礫混じり粘性土質砂からなる。 礫はφ5～30mm程度の泥岩角礫。		
2	440.72	5.80		崩積土	青灰褐 茶 青灰褐 淡黄褐	D E D	V Ⅶ V Ⅵ	d		2	崩積土。 GL-1.55～1.70m間，砂礫からなる。砂は細砂主体。礫はφ5mm程度の泥岩角礫。 GL-1.70～2.55m間，礫混じり粘土からなる。礫はφ5～20mm程度の泥岩角礫。 GL-2.55～3.70m間，砂礫からなる。砂は粗砂主体。礫はφ5～50mm程度の泥岩角礫。 GL-3.00～3.70m間，原岩組織残す。		7/4 1.80 7/6 4.50
6	435.62	10.90		風化花崗斑岩	褐 灰褐 褐	C	Ⅱ Ⅴ	c d c	δ γ		貫入岩。 風化花崗斑岩を主体とするが，部分的に泥岩の薄層を挟む。 全体に，水平面より傾斜10～25度程度の片状構造が見られる。 GL-6.45～7.00m間，風化棒状コアとして採取される。 GL-7.45～7.60m間，破砕激しい。φ5mm程度の泥岩亜角礫混入。 GL-7.60mより硬質化。岩片～短棒状コアとして採取される。	D	7/6 7.90 7/7 10.10
11	431.17	15.35		花崗斑岩	黒褐 褐～淡褐 灰褐	B B	Ⅲ	b c b	β β		GL-10.90～11.50m間，風化花崗斑岩の間に硬質な泥岩を挟む。 GL-14.00mよりコア状態良くなる。	CL	7/7 11.50
16	429.52	17.00		泥岩	黒褐	B		b	β	1	泥岩の新鮮部。 全体に硬質で，部分的に花崗斑岩が挟在する。 深度方向に状態良くなる。		

コア採取率 ×（%）　最大コア長 ●— cm　RQD ——［%］

深度 m	打撃回数／貫入量 回/cm	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 cm/時	孔径／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧 MPa	回転数 rpm	送水圧 MPa	送水量 l/分	排水量 l/分
1.15	3/33			7/2		66／ケーシング	シングル／MC	0	0	0	泥水／0	0
1.48												
2.15	9/30											
2.45												
3.15	10/30											
3.45												
4.15	15/30											
4.45												
5.15	8/30											
5.45												
6.15	10/30											
6.45				7/3		60						
7.15	19/30											
7.45												
8.15	28/30						ダブル／DC	50	200			
8.45												
9.15	50/15											
9.30												
10.15	38/30											
10.45												
11.10	50/13			7/4								
11.23												
12.00	50/15											
12.15												
13.00	50/9						ダブル／ダイヤ	50	150	2	泥水／8	8
13.09												
14.00	貫入不能											
15.00	貫入不能											
16.00	貫入不能			7/6								
				7/7			D/DC			2	泥水／8	8

N値 0 10 20 30 40 50 60